

## 令和 8 年 4 月 文書質問及び回答

1 質問者 我孫子 洋昌 議員

2 質問事項 地域おこし協力隊、会計年度任用職員等の充足状況等について

質問の内容・要旨	回答
<p>本町が実施する各種施策、また中長期的な計画実現に必要とする人材を確保するために、町は正規職員のほか、地域おこし協力隊や会計年度任用職員を募集している。すでに令和 8 年度に入っているが、募集していた人材確保状況と、確保できない場合の影響度について伺う。</p> <p>(1) 福祉医療施設での人材確保は、既存職員の労働環境改善と体制維持、そして利用者へのサービスの充実につながるが、正規職員を含め職員が不足している施設では、充足できないことによってどのような影響が生じると想定しているか。</p> <p>(2) 産業振興課関連での地域おこし協力隊は、新規就農予定者以外に確保できたのか。協力隊が確保、定着しないことで施策の実現可能性にどのような影響が生じると想定しているか。</p> <p>(3) 「地域共育ビジョン」の実践に必要とされる地域共育コーディネーターは確保できたのか。確保できていないとすれば、どのような影響が生じると想定しているか。</p> <p>これらの人材を確保することで今年度及びそれ以降の町の施策の実現を期待する町民に対しても、年度当初に確保できなかった人材を、引き続き積極的な募集活動を続けることが、町の「熱量」を示すことにつながると考えるが、町の見解を伺う。</p>	<p>(1) あけぼの園は、地域における高齢者福祉の中核施設として、入所者一人ひとりに対し、安全かつ安定したサービスを提供する責務を担っております。そのためには、正規職員をはじめとした人材の確保が不可欠であると認識しております。</p> <p>一方で、財政的な問題もあり正規職員のみで人員体制を確保することは難しく、持続的な施設運営の観点からは課題があります。このため、会計年度任用職員を活用した柔軟な人員配置が必要であります。国内全体での人材不足や町内人口の減少等により、町内外を問わず人材確保は年々困難な状況となっております。</p> <p>こうした状況を踏まえ、介護分野における外国人材の活用については、本年度中の受入れに向け、既に具体的な対応を進めているところであります。あわせて、円滑な受入れを図るため、受入れ体制の整備や業務内容の整理、教育・支援体制の構築などについても、関係制度との整合を図りながら段階的に取り組んでまいります。</p> <p>また、地域おこし協力隊については、一定のマンパワーとして施設運営を補完する可能性があるものの、介護保険制度上の人員配置基準に算定することができないため、直接的に職員不足を解消する手段とはなりにくい側面があります。そのため、受入れを行う場合には、業務内容や配置のあり方について十分な</p>

検討が必要であると捉えております。

現在、あけぼの園においては、職員体制の制約を踏まえ、既存職員の過重な負担を回避し、利用者の安全とケアの質を確保することを最優先に、入所定員の調整を行いながら運営している状況にあります。こうした受入れ制限により、入所を希望する町民が町内施設を利用できず、やむを得ず他市町村の施設へ入所することとなった場合、町民の町外流出につながるおそれがあることも懸念しております。

町といたしましては、こうした現状と課題を重く受け止め、引き続き多様な人材確保の方策を講じるとともに、働きやすい職場環境づくりや人材の定着支援に取り組み、あけぼの園の体制の安定化を図ってまいります。

(2) 産業振興課関連の地域おこし協力隊につきましては、令和 7 年度に予算を計上しておりました農産物加工研究所(1名)及び特用林産物栽培研究所(1名)につきましては、確保に至りませんでした。

なお、令和 8 年度に予算を計上している地域おこし協力隊につきましては、有害鳥獣捕獲従事者(1名)は確保することができましたが、農産物加工研究所(1名)、特用林産物栽培研究所(1名)及び一の橋バイオビレッジ(2名)については、現在募集中となっております。

現在募集中の人員につきましては、いずれも正職員が対応しており、施策の実現に支障を来すような影響は生じておりませんが、今後とも、持続可能な事業展開ができるよう、引き続き積極的な募集活動を進めてまいります。

(3) 地域教育コーディネーターにつきましては、現在のところ確保できていない状況にあります。令和8年度におきましては、3名の募集があり、1名は辞退、2名で最終選考を行い、1名の内定者が3月末に来町し、住居や仕事について2泊3日で説明を行いました。その後、辞退の連絡がありました。

確保できていないことによる影響といたしましては、主に「居場所づくり事業」の業務に支障を来している状況にあります。

「居場所づくり事業」は、森ジャム、うどんまつり、アイスクャンドルミュージアムなどにおけるボランティア活動や、中学校でのテスト前学習スペース設置、スキー場でのあそび場づくりなどイベント的なことを実施しております。

本来であれば、イベント的なことだけでなく、日常の居場所として、定期的な場所を子どもたちに提供し、いつでも安心して立ち寄り、自分の好きな活動を行ったり、町民と出会える場を作っていきたいと考えておりますが、スタッフ不足により、そこまで踏み込めていない状況にあります。

地域共育コーディネーターにつきましては、継続して今年度も募集し、地域共育ビジョンの実現に向けて努めてまいります。

以上申し上げまして、答弁といたしますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。